

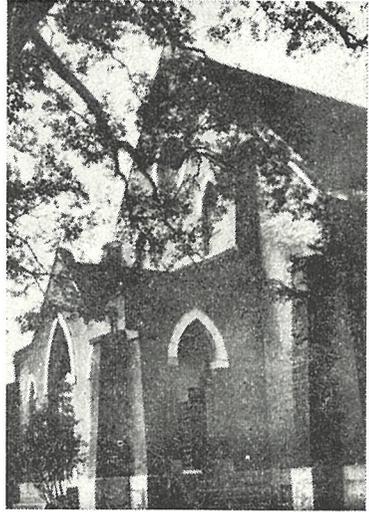
同志社礼拝堂

重要文化財

指定

文部省内にある重要文化財保護委員会（委員長河原春作元文部次官）は、明治建築中の代表的なものを重要文化財に指定して保護する必要を痛感し、

かねてから予備調査中であつたが、去る二月十三日、非公式に委員会の指定内意が同志社に伝えられた。次いで二月二十三日の同志社理事會はこの内意に応じ、指定申請を正式の議題として審議し、全員一致で同志社内の下記五棟の明治前半期建築を重文に指定方を申請することを決議した。越えて二月二十五日、保護委員会建造物課長、東大教授工学博士関野克氏と秦同志社理事長との会見となり、五棟のうち礼拝堂だけが先ず指定を受けの見込みがほぼ明らかとなった。かくて三月二十九日、東京で開かれた委員会で礼拝堂一棟を指定することが決定した。



○彰栄館（旧館のみ、明治十六年定礎）

○礼拝堂（明治十八年定礎）

○有終館（明治十九年定礎）

○ハリス・サイエンス・ホール（理科学館

明治二十二年定礎）

○クラーク・メモリアル・ホール（神学館、

明治二十五年定礎）

礼拝堂が先ず第一に指定された理由は、明治のキリスト教新教の煉瓦造り、最古の然も代表的なもので、壇上の説教台、椅子、会衆のベンチから窓の色ガラスの大部分、地下室の暖房設備のあとまで、創建当時のまま残っているという、建物や家具自体の価値が一つ、

人物往来

ネルソン博士夫妻 (United Church Board for World Ministries 会長) 三月二十日米学。大学卒業式に出席。

ポール・R・グレゴリー牧師 (U・C・

B・W・M 東洋宣教部総務) 四月八日より十日まで京都に滞在。

ピクスラー博士 (アモスト大学理事) 同

博士は新島先生と関係の深いシーリーイ教授の

令孫。四月二十七日より五月三日まで滞在。

石川芳次郎氏 (校友、京福電鉄会長) さき

ほど米国のトーマス・アルバ・エジソン基金

財団の初めての外人理事に選ばれた。

千宗興氏 (評議員、裏千家宗匠) ロック

フェラー財団、日米協会に招かれて二月十七

日、登三子夫人とともに渡米。

深田未来生氏 (神学部講師) 昨年末献堂式

をあげた、西陣労働センターの館長として就

任。同館のスタッフ五人、平均年令は二十八

才、西陣改革に体当たりしている。

吉田法晴氏 (校友、前参議員議員) 三月の

北九州市初代市長選に当選。

第二には新教を代表する礼拝堂は未指定であったという振りあいもある。

大和の法隆寺以来、日本の建築史一千五百年のうち、煉瓦建築を造ったのは幕末から大正初年までの僅か五十年間で、それ以降は法律で煉瓦造りを禁止した。従つてこの頃のように合理化、近代化のため煉瓦建築がどしどし破壊されては、百年後のわれわれの子孫は日本の煉瓦建築を知らぬことになるので、文部省では戦後その現状調査をしたところ、工場には古いものが一、二あるが、学校に残るものでは明治十六年の同志社彰栄館が一番古いことがわかった。但し彰栄館は近年の増築で東北の一角が変形し、内部も近年甚しく改造されているので、このたびの選にもれたことは残念である。むしろ五棟のうち最も新しい二十五年の神学館が旧態をよく維持しているので、次期には指定を受けるのではないかとされている。しかしこのたびの調査によると、彰栄館の時計は、目下日本に残っているものでは一番古い時代のものに属する貴重な遺品らしい。機械のタブレットには Seth Thomas Clock Co. Thomaston, Conn. May 5, 1885 とある。だから彰栄館の完成が

明治十七年、そこへ十八年五月製の時計が据えつけられたのであろう。

京都大学の建築学講座担当教授、故武田一博士が、同志社の煉瓦建築は将来国宝に指定さるべき運命を持つから大切に手入れをせよ、と同志社当局に勧告があつてから三十五年、同志社から非公式に文化財保護委員会の係り官へ資料を提供し始めてから十年以上の年月が流れたが、同志社の伝統というせまい範囲以外に広く、明治という栄光に満ちた時代を築きあげた日本の民族的記念建築を、わが同志社が残すことになつたのはめでたい。のみならずこんな美しい建物を残した先輩に感謝せねばならない。

同志社の校友近藤豊氏(大阪学芸大助教)は、明治建築史を専攻して昨年工学博士の学位を得られたが、学位論文中の一部に同志社の明治建築調査報告が含まれている。

とにかく指定によつて永年の懸案の一つが解決したが、このことは内に同志社総長、理事長以下理事各位と関係教職員、校友有志の伝統維持に対する深い理解と、外は文化財保護委員会、関野建造物課長ほか多数関係者の好意によつたもので感謝にたえない。(T)

酒井美智男氏(校友、京都YMCA総主事)マラヤにて開催されるアジヤYMCA指導者協議会に出席のため四月十五日出発。

林 信雄氏(校友、横浜市大教授)「合同労組と労働法」を新刊。四九〇円、ミネルバ書房刊。

中島和子姉(校友)「世界」二月号に「嵐の前のキューバ」を寄稿。同姉は米國にておもに黒人問題を研究。昨夏、黒人解放運動家ロバート・ウイリアムズに招かれキューバに滞在した。

吉本晴彦氏(校友、吉本建物社長)本年度日本青年会議所の副会頭に就任。

関野 克氏(文化財保護委員会、建築物課長)二月二十五日、チャペルその他、同志社の煉瓦建築を重要文化財に指定するため、これが調査のため来学。

中川雅一氏(元大学総務部)同志社時報編集委員の同氏は三月末退職。郷里の富山県朝日町の助役に就任。

並河 純氏(元高校教諭)さきほど逝去された父君の事業継承のため退職。山陰酸素の専務に就任、今後松江に在住せられる。